

つわぶき



利用者創作活動作品

〒 869-5563

熊本県葦北郡芦北町大字湯浦1505-1

社会福祉法人 光輪会

障害者支援施設 石路の里 TEL 0966-86-0515 FAX 86-1194

グループホーム つわぶき TEL 86-0999 FAX 86-0999

熊本県葦北郡芦北町大字湯浦1506-9

障害者グループホーム つわぶきの家 TEL 86-1868

新しいトイレが完成しました

トイレ改修工事が、終了しました。新しいトイレは、全部個室対応となっており、プライバシーに配慮した作りとなっております。また、お座敷トイレは、シャワーもついた設備になっており、より快適に使用していただけたと思います。



11月の行事予定

- ・在宅ショッピング 2日(火)~5日(金)
- ・入所ショッピング 8日(月)~20日(土)
- ・園内風船バレー大会 11日(木)
- ・園内オセロ大会 17日(火)
- ・焼き芋大会 24日(水)



宮本剣心生活支援員



橋口恵理子生活支援員

新人職員紹介

グループホームだより

《コスモス見学》

10月は、水俣市の中尾山へドライブに出かけました。丘の上には色とりどりのコスモスが鮮やかに咲き乱れ、気持ちの良い風を浴び眺める景色は最高でした。



《グループホームの生活》

家庭的な雰囲気の中で、自分に出来る料理、洗濯物たたみ、掃除、体操レクリエーション活動などを行い楽しく和やかに過ごしています。



【お知らせ】

【面会についてのお願い】

- 蔓延防止措置解除に伴いまして、短時間の面会を再開しております。
 - ◎面会日は、平日のみとなっております。
 - ◎面会予約は(月~金曜日8:30~17:00)面会希望日の前日までをお願いいたします。
 - ◎当日玄関前にて手洗い・うがいの実施。面会者全員のマスク着用をお願いします。
 - ◎面会の方は全員検温(職員で実施します)37.5℃以上の方は面会をご遠慮下さい。
 - ◎面会時間は15分以内とします。
 - ◎ソーシャルディスタンスを保つため、アクリル板を挟んでご面会ください。
- (利用者様との接触はお避け下さい) ※その他体調の悪い方はご面会をお避け下さい

【冬季家族会の開催について】

12月12日10:30より家族会を予定しております。新型コロナウイルスの状況により開催を中止する場合は改めてご連絡いたします。

【インフルエンザ予防接種の実施について】

11月1日から4日にかけて、利用者様・職員のインフルエンザ予防接種を実施致しました。

ビンゴゲーム大会



次は、誰がビンゴかなー



福田様どれにされますかー



施設内ビンゴゲーム大会が開催されました。今回は、景品にも力を入れ、たくさんの種類の物を用意しました。皆さんお目当ての景品を目指し一生懸命に取り組まれました。リーチがそろうたびに歓喜され、ビンゴがそろうと大きな声で、「ビンゴ」とセンター中に響いていました。皆さん景品を貰われとても嬉しそうにされていました。



盛り沢山の景品



はーい!ビンゴ!!



ありがとうございました

園内研修

新人職員を対象とした、基礎介護研修を行いました。移動式リフターの使い方、利用者様の基礎的な介助の仕方など先輩職員の指導の下で、取り組みました。今までの介護が適切に行われていたか、再確認する事が出来たと思います。



湯浦中学校の生徒の皆様が手作りのフラワーアレンジメントを「施設で過ごされる利用者の方、働く職員の方がこの花を見てお元気になってもらいたい」とお手紙を添えて持って来られました。とてもきれいに出来てみなさん喜ばれていました。ありがとうございました。



お一人お一人メッセージが添えてありました

理事長就任のあいさつ

令和三年十月十五日の理事会におきまして前理事長山本秀久の後を継ぎ、理事長に就任いたしました。昭和五十五年の設立から四十一年の歴史のある当法人の理事長の職に就くにあたり、その責務の重さを痛感し身の引き締まる思いです。福祉経験のない私が、三十七歳の時民間のサラリーマンから入職をし、早いもので二十二年の月日が流れました。措置時代から支援費制度へ、そして障害者自立支援法へ、更に障害者総合支援法へと、障害者サービスが変化の渦に巻き込まれていく目まぐるしい時代でした。七年前に、初代施設長母山本榮子の永眠により施設長に就任をし二代目理事長父山本秀久が永眠をし、全ての責任を任された今、法人の理事・監事・評議員、利用者様・ご家族、職員、関係各位の皆様のお力をお借りして、新しい時代に即した社会福祉サービスを提供できる法人を目指します。変化を恐れず、沢山のご縁を大切に、社会福祉法人だからできることを念頭に置き、その使命を果し、より一層この芦北、水俣地域になくてはならない存在になるよう努めて参ります。

社会福祉法人 光輪会
理事長 山本 恭永

山本秀久理事長を追悼し
熊本日日新聞社より
令和3年10月30日掲載

やまもと ひでひさ
元自民党県連会長 山本 秀久さん 9月29日死去 85歳

「県民のため」愚直に貫く

「誠心誠意」の4文字を必す県議選のポスターに入れ、政治信条であり、人生観だった。10期40年の議員生活は、私心と無縁の「真つぐな」だった。1979年、43歳で初当選。3年後、新人議員ながら大胆な行動で県政界を動かす。自民党県連の幹部主導で調整が進んでいた沢田一精知事（11〜83年）の4選に反旗を翻し、細川護国知事（83〜91年）の誕生を導く立役者となった。長期政権や密室政治への反感があった。芦北の山林地主の家に生まれ、細川家との関係も深かったという「つとまめ」でも動かない。風変わりだったが、若い頃から「自民党は県民のための政党」という口癖が、公認以上



浦島部夫氏の知事選初当選が確定となり、壇上であいさつする山本秀久氏。＝2008年、熊本市の選挙事務所

追想

—メモリアル—

県議会のベテラン議員控室、通称「長老部屋」を訪ねると「おお、元気かい」と笑顔で迎えてくれた。口数少ない好々爺かと思いきや、水俣病で傷ついた地域の振興策では県幹部への直言をならわなかった。県民と地元の負担に愚直に応えた一匹狼だった。（並崎隆光）

舞台回しに懸けた勝負師

評伝 山本 秀久さん

古風な屋敷を訪ねると「何の用かい」一見、ぶっさらほうだが「まよがらなうせ」。取材を断られた記憶はない。一方で質問に返ってくるポネタにはならなかった。それでも、顔を突き合わせて話したいと思ふ人だった。「俺はど家が好きか政治家はおらん」。その言葉通り、深夜になっても芦北の自宅に帰る。翌朝早く県議選に通った。取材の際も度々腕線し、地域振興の話も。長期ポネトに批判の声もあったが、地元への思い入れは人一倍強かった。何度か聞かされた昔話がある。派閥抗争や知事選をめぐる舞台裏だ。（毛利聖）

熊本日日新聞社より
令和3年10月2日掲載